

牛久：学校周辺に見る自然

第15号

牛久市中央生涯学習センター，他

2010年6月3日発行

<竹の秋から麦の秋へ>



新緑の中であって、しばらく前まで、あちこちの竹林が枯れてしまったかのように黄色っぽく見えていたのに気が付いていましたか？ 春になると竹は、蓄えた養分を地下の^{たけのこ}筍の成長に注いで、緑の葉はしだいに黄色っぽくなっていきます。この竹の紅葉の季節を



「竹の秋」といい、春の季語になっています。^{いんれき}陰暦3月の別名でもあります。まるで、子どもを育てた親の竹が、安心して枯れていくようにも見えます。が、もちろん竹本体は枯れているわけではなく、入れ替わりに新しい葉を開いてきます。

(写真はいずれも中央生涯学習センター駐車場にて撮影。上：新緑や針葉樹の濃い緑と対照的な竹の秋。下左：黄葉した竹の右には、大きく伸びてきた筍が…。下右：黄色くなった葉と入れ替わりに新鮮な緑の葉が開く。)

これに対し、麦の穂が黄色く色付く頃を「麦の秋」といいます。これも俳句の季語となっており、陰暦4月の別名でもあります。「秋」という字は音で「しゅう」と読み、採りいれの意味の「収」から来ているという説があるそうで、「麦の秋」は「麦の収穫の時期」を指すともいえそうです。田植えが済んで緑一面の水田地帯に、麦畑の黄褐色がひとときわ映えていました。【理科支援員・宮内】

